

2021

2-3月

はしかけニューズレター

2020年度 第6号 通巻157号

2021年(令和3年)2月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川・松岡)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

(注意) 平成30年11月よりHPアドレスが変更になっています。

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバはしかけ
- (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生きもの調査グループ
- (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
- (24) サロン de 湖流 (25) 水と暮らし研究会 (26) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 ... 372人
 グループ数 26グループ
 (2021年2月1日現在)

1. 事務局からのお知らせ

(1) 2021年度 はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

年度末が近づいてまいりました。2021年度も継続して、はしかけ活動をされる方は更新手続きが必要です。はしかけ会員の皆様には別途ご案内をお送りしますので(2月下旬予定)、更新受付票の提出を交流係までお願いします。

本年度より博物館セミナー室での対面式での更新手続き、および担当学芸員を通じての更新手続きを行いません。

(新型コロナウイルス感染症対策、および個人情報、現金の取り扱い業務による事故防止のため。)

◎ボランティア活動保険料の350円の納入は、基本下記により3月19日(金)までお願い致します。

・送付する振替払込取扱票(00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度)にてお振り込み(手数料別)

※ 上記による納付が困難な場合は、交流係 中川(信)または松岡にご相談ください。

※ 担当学芸員を通じての納付はお控え下さい。

ご不便をお掛けするところもございますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。

詳細は、後日送付します更新手続きのご案内をご確認ください。

(2) 第2回はしかけ登録講座

本年度第2回目のはしかけ登録講座を2021年3月7日(日)に予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、中止またはオンラインでの開催を検討中です。グループ代表者の方へは2月中旬に、方針を別途メールで連絡致します。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田 征也

【活動報告】

■(荒天中止)12月20日(日) 第156回定例調査 場所:祖父川、惣四郎川等 参加者:1名
日野川支川での開催を予定していましたが、雨、雪、低温の予報により、中止しました。当日早朝の連絡メール配信だったため、私(中尾)は念のため集合場所へ行きしばらく待機しましたが、間違っただけの方はおられず、安堵しました。少しだけ周辺の川を見て回りましたが、面白そうな場所がたくさんありました。来年度には是非調査したいと思います。

■(中止)1月17日(日)勉強会

琵琶湖博物館での勉強会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止としました。

【今後の予定】

昨今の情勢から、中止、変更となる可能性があります。その際はメールにて連絡いたします。

■2月21日(日) 勉強会

■3月28日(日) 総会

【その他】

来年度の活動計画案を作成中です。訪れたい調査場所や、やってみたいことなどがあれば、運営委員会までご連絡下さい。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本 道範・渡部 圭一

【活動報告】

新型コロナウイルスのさらなる感染拡大の影響で年頭より再び活動を休止しています。

【活動予定】

蓄積データの編集などの作業を中心に今後の活動計画を見直します。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数 (のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■ 11月22日(日) 参加者: 3名

オープンラボにて持参した落葉等、植物の写生をしました。

■ 12月24日(日) 参加者: 4名

2021年の活動内容についてミーティングを行いました。

○ 2月から活動日を第三日曜日に変更、活動時間を10時～16時30分としました。

○ 活動場所については下記のように決定しました。

4月 赤野井町(守山市)

5月 仰木(大津市)

6月 醒ヶ井(米原市)

9月 花緑公園(野洲市)

10月 曾根沼(彦根市)

11月 坂本(大津市)

12月 ミーティング

※1～3月、7月、8月、12月は館内で植物や剥製などをスケッチします。

1月24日(日)の活動については次号でご報告します。

【活動予定】

・2月21日(日) 10時～16時30分 オープンラボ、水族展示室他にてスケッチ。

・3月21日(日) 10時～16時30分 オープンラボ、水族展示室他にてスケッチ。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数 (のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

【活動報告】

■ 11月28日(土) 参加者: 3名

スピンドルで糸紡ぎ。次回の藍染に備えます。

■ 12月19日(土) 参加者: 5名

年末最後となりました。午前中はしめ縄作りをさせてもらって、午後からは各自の作業。

■ 1月6日(水) 参加者: 5名

地機を織りはじめました。2か月ほど休んでいた間に経糸が切れやすくなっており、織るより糸をつなぐ時間が長くなってしまいました。1日織ってやっと10cmほど。先は長い。

また、次の地機にかけるため、整経した糸の本数を確認しました。560本あったので、相応の箆を探すことになりました。



1月6日活動風景

【活動予定】

1月30日(土)、2月13日(土)、24日(水)、3月10日(水)、27日(土)

(辻川智代)



【活動報告】

■2020年11月の活動

*開催日が11/15で前回の報告に間に合わなかったので報告する。

○湖南省岩根旧採石場見学・岩石調査ハイキング(参加者10名)

日時:2020年11月15日(土) 9:30~15:00 晴れ

担当:安井

・調査地域

湖南省岩根の『十二坊ウォークの会』が定めたハイキングコースとその周辺

・調査の狙い

湖南省岩根周辺の特に関心花崗岩の実情を把握すべく旧採石場、ハイキングコース沿いを調査すること。

・調査の概要

大津の岩石調査隊は花崗岩の山や繖山に代表される溶結凝灰岩の山等、火成岩の山や露頭を幾つも調査してきた。今回調査の十二坊は6月に調査した繖山に近いが、溶結凝灰岩の繖山とは異なり花崗岩の山である。花崗岩は深成岩でありマグマの固化体ともいえる。昔は地中にあったものであるが繖山より若干高い。不思議とも思える。企画者の安井さんからの説明と、最初に顧問の中野さんから十二坊の3研究史を説明して頂き、まずは参加者にしっかり事前説明をしてから調査に入った。調査に入って即採石場で層状の露頭、花崗岩の石切り場の崖、積まれた石、散乱する岩石、狭い尾根筋のいくつかの露頭、谷沿いの石英ブロック等、色んな岩石調査が出来た。また、帰り道に露地植えの芭蕉の木に南国でもない湖南省に小さなバナナがなっているなど、色んな不思議に遭遇した調査とハイキングであり面白かった。

・調査のポイント

①本地域の主な調査の概要説明 中野さんの説明

主な報告として次のものがある。A. 周琵琶湖花崗岩団体研究グループ「琵琶湖周辺の花こう岩質岩体—その6. 野洲花こう岩体」、B. 細野高啓・牧野州明「琵琶湖南部、後期白亜紀野洲花崗岩体の岩相変化」、C. 産業技術総合研究所地質調査総合センター地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)近江八幡地域の地質。この場所は花崗岩の状況からマグマの内部が分かる場所であり貴重である。花崗岩の結晶は結晶化の条件により異なる。つまり、急冷域の結晶は細かく、徐冷部は大きくなる。しっかり観察すると面白い。

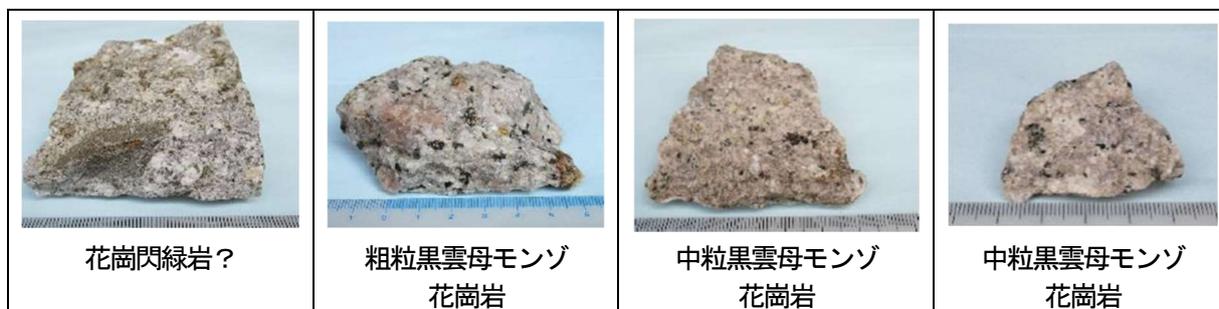
②具体的な狙い

今回の調査地は粗粒黒雲母花崗岩に分類され、粒度は粗粒となっている。参加者がそれぞれの目で直に見て確認すること。

③得られた知見

A. 旧採石場では粗粒黒雲母モンゾ花崗岩が採石されていた。残っていた採石岩は、岩石表面が茶色に変色しており“さくらみかけ”と思える綺麗なものは無かったが、岩石の新鮮な面は、肉眼観察で約8mmの桃色アルカリ長石や黒雲母5mm大も確認できた。また、花崗閃緑岩と思われる優白色の不思議な岩石が採石されていた。暗色包有岩のような青灰色の約2cmの円状、或いは褐色の角状、さらに捕獲岩とも思える紐状の岩石が貼りついたものもあった。

B. 旧採石場の岩石から中粒黒雲母モンゾ花崗岩も確認できた。地質図で粗粒黒雲母モンゾ花崗岩に分類されている報告もあるが、漸移関係が存在するのだろうか、と思った。がれ場にはアプライトの転石も確認できた。



- C. 旧採石場の仮設事務所には 1979 年のカレンダーが掛けて残り、朽ちた納品書等からは当時の状況も読み取れた。
D. ラミネーションシーティングと思われる花崗岩の部分があった。
E. 低い山なのに尾根の幅が極めて狭い。また、ごく細粒の岩脈状物が見事に花崗岩と併存し、その中央が割れている露頭があった。マグマだまりの構造を調べるには好適な場所なのかとも思われた。

③企画者の安井加奈恵の調査後の感想

今回の調査・ハイキングにはこの地域の地質に詳しい西村貞浩さんにも参加頂きました。有り難うございました。地学の先生が3人もいて、実のある贅沢な調査会でした。旧採石場を巡るハイキングコースは、山道のアップダウンで汗をかき、進路のがれ場では、たち木を頼りに滑りながらの前進。倒れた木のトンネルをくぐり、小さな川を飛び越えて進みました。全員が怪我をすること無く、楽しい一日になりました。皆様、大変有り難うございました。

■2020年11月の活動

○地学基礎の教科書をつかった勉強会(第2回)、参加者8名

日時:2020年12月12日(土)13:30~16:00

9月の村上さんの第1回に続き、田中さんから報告をして頂いた。田中さんも膨大な資料を作成し丁寧な説明をしてくれました。よく理解できました。今回もコロナ対策のため、網戸を使い外気を取り入れながら行った。1月もコロナ対策をしながら活動を行いたい。

(1)報告者：田中さん

(2)ポイントと内容:

第1部:地層(風化・浸食・河川のはたらき等)

第2部:変成岩(接触変成岩・広域変成岩)ホルンフェルス、スカルン、エクロジャイト等

第3部:持ち寄った岩石観察、今後の予定について話し合い

(3)報告者・田中さんの感想

(資料をつくることに囚われ過ぎて)発表の練習ができなかった

→資料(パワーポイントで)60分あたり、10~15枚で十分だと思う

(時間が気になり)進行が早くて、早口になってしまった

→1枚あたり5分ぐらい、ゆっくり話した方が良いと思う

予定では教科書p.68~100までとしていたが、実際はp.68と69しか進まなかった

→テーマにもよるが教科書3~4ページで纏めた方がよいと思う

【2021年1月以降の活動予定】

・1月23日(土) 13:30 - 琵琶湖博物館 地学勉強会 Vol.3 中村みどりさん・絆那さん

・2月 日時未定 琵琶湖博物館 地学勉強会 Vol.4 梅澤



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾 滋史

■11月28日(木) おでかけ撮影会 in 彦根第2弾
天候不良につき、中止となりました。

■12月12日(土) 10:00～ 博物館実習室2 参加者9名
これまでの撮影した写真の整理作業を行い、メンバーが撮影した写真をスクリーンに映して紹介、説明を行いました。

■1月14日(木) 10:00～ 大橋コレクション整理作業 参加者5名
チェックした写真の中から、博物館ホームページの資料データベースに掲載する写真の選別を行いました。この日で選別作業の8割くらいが完了し、いよいよ公開までのカウントダウンが始まりました。

<今後の予定>

- 1月30日(土)おでかけ撮影会 in 多賀 近江鉄道多賀大社前駅 10:00 集合
- 2月18日(土)大橋コレクション整理作業
- 2月27日(土)博物館周辺の風景、生き物撮影



(7) くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

日時: ①11月25日(水) 13:00~15:30 場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 2名

②11月29日(日) 13:00~15:30 場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 4名

活動内容: 多賀の発掘現場で採取した土を小割りし、顕微鏡で観察したり水洗したりして微小な化石を探す作業を行なった。11月29日(日)は植物の葉の化石?のようなもの1点を採取した。

■野洲川での屋外活動

日時: 12月13日(日) 10:00~

場所: 野洲川(滋賀県湖南市) 参加者: 13名

活動内容: 10月31日(日)に実施した、地層の観察などの屋外活動に向けての事前自主勉強会で学んだことを踏まえ、実際に古琵琶湖層群の地層が露出している現場へ行き、柱状図の書き方などを実践。

活動結果: 現地には滋賀県足跡化石研究会の岡村喜明先生が参加され、午前中の活動では、1988年・1989年に野洲川で行われた足跡化石の調査について当時の様子を伺った。また、現場の地表面などに見られる模様やくぼみについての説明を受けた。

古琵琶湖層群の地層が大きく露出している場所では、事前に柱状図の書き方について勉強してきたメンバーが説明。参加メンバー全員で、地層の重なり方や地層を構成する土の粒の大きさなどをよく観察して気づいたことをお互いに発言し、地層の境界を確認して、それぞれの層の厚さを測定、各自で野帳に柱状図を書き込んだ。

また、以前よりメンバーからの強い要望があった、クリノメーターを使っでの地層の走向・傾斜を測定する実習も行うことができた。

午後からは、もう少し上流で地層が露出している場所へ移動し、午前中と同様に実践。メンバー同士で協力しながら地層の観察や測定などの調査を行なった。大型の樹根化石も観察することができ、学芸員の山川さんから説明を受けた。

普段は化石を中心に調査したり学んだりする活動を行なっているが、地層をじっくり観察することで、地層に記録されていることを読み取る奥深さに気づくことができ、とても手ごたえのある活動を行うことができた。

今後も、化石・地層の両面から古琵琶湖層群を調査する技術を身につけていけるよう、活動をしていきたい。



地表面に見られる模様について観察中



地層の様子を観察しながら野帳に記入

【活動予定】

■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

①日時: 1月14日(木) 13:00~15:30 場所: 琵琶湖博物館 実習室1

①日時: 1月17日(日) 13:00~15:30 場所: 琵琶湖博物館 実習室1



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】 活動休止中

【活動予定】 未定



(10) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 妹尾裕介・大槻達郎

寒の入りとともに寒さが一段と厳しくなってきました。ただ少しずつ日は長くなってきていて、季節の移り変わりが感じられます。ウメ、スイセン、サザンカ、ロウバイの雪中四友を愛でて、暖かな季節を待ちたいですね。さて、この間、新型コロナウイルス感染症の感染急増にともない緊急事態宣言が近隣府県に出てしまい、琵琶湖博物館でも対策のため、ディスカバリールームのイベント「森の宝物をさがそう!」は、残念ながら中止になってしまいました。ワークショップ等も当分自粛が続きそうです。状況が改善次第、活動を再開していきたいと考えています。Web ページ等で最新情報のチェックをお願いいたします。

【活動報告】 なし

【活動予定】 現在調整中、詳しい内容はメールで問い合わせください。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に妹尾・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう!

また、ザ! ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



(11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8 名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山本 綾美

【活動報告】

■ 12月5日(土) 押し花灯りづくり 参加者8人

今回は里山の会の内部活動として押し花と和紙を使ったランプシェード作りを行いました。

当日 10 時、皆さんマスクをして生活実験工房に集合。予め用意した押し花の他、工房周辺で当日採取したカエデやサザンカの花を電子レンジでチンすることで色付きの押し花を作りました。ランプシェードの材料は、クリアファイル、和紙、押し花、のり、ハサミ、両面テープ、ナツメ電球(5W)、木の台座、電気コードです。和紙にも質感、模様、色など様々な種類があり、どの和紙を使うかによって趣が変わります。押し花の種類も様々。皆さんどの押し花を使ってどんなデザインを作るか考えるのに夢中となり、改めて身近にある植物の形の美しさに気づかされました! 完成したランプシェードは個性豊か。和紙を通した柔らかな光で、コロナ禍で続くおうち時間もほっと心を和ませてくれそうです。(元廣)



【今後の活動予定】

■ 1月16日(土) 里山体験教室下見 1月24日(日) 里山体験教室本番



(12) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

昨年の暖冬とは打って変わり、この冬は雪も多く、冷え込むことが多いようです。先日、ため池の水の表面が凍っているのを見ました。一方植物たちはこの厳しい冬に耐え、花芽や葉芽を守る工夫をしています。どれくらい前からそんなことを仕始めたのか？工夫の出来ていない植物はあるのか？たったそれだけの1枚皮でなぜ耐えられているのか？などと独りで考えてしまっています。

【活動報告】

12月6日(日) 「博物館周辺、樹幹トレイルでの観察」 参加者 3名

今回も、代表者欠席のため、後日メールにて詳細内容や感想を送っていただきました。

新型コロナの流行が再びあちこちで起き始めたため、実習室へ集合した後、すぐに屋外への観察に出たとのこと。実習室の顕微鏡が早く使えるようになり、またみんなで植物のつくりやその不思議さを共有出来る日を皆で待っています。

ここからは、参加メンバーからの感想や報告を編集しています。

博物館の玄関の周辺から湖岸へ出て、烏丸記念公園及び湖岸(東～北側)の植物を観察。

- ・主な植物はカツラの翼の付いた種子、アメリカノウゼンカズラの果実、シナノキ及びボダイジュの苞葉の付いた果実、センリョウ、マンリョウ、ヤブコウジの果実、ハマヒサカキの雄花、雌花及び果実(花の臭いもヒサカキそっくり)、イチゴノキの花と果実、ローズマリーの花、アメリカミズキンバイ(ヒレタゴボウ)、スカシタゴボウの花と果実、モミジアオイの果実、トウカイタンポポの花、サルスベリの果実と種子、アレチウリの果実、オナモミの果実、オオマルバノホロシの果実、ハッカの葉と香り、ヒイラギの雄花などを観察した。絶好の観察日和に恵まれ気が付けば終了時間が迫っていた。

- ・まず「浜姫榊(ハマヒサカキ)」を、烏丸記念公園に見に行き、花や実を観察した後、公園を過ぎたところで湖岸沿いに出たところで「イチゴの木」を観察。「イチゴの木」は以前に本で知っていたがこんなに身近なところに植樹されていたと知って感激した。オマケに実も見ることができたので、木の実好きな私としては感慨もひとしおだった。車などで何度も通っているところでも、いろいろな発見があるので歩いてじっくり見て回ることの大切さを感じる1日だった。また、違う季節に同じ植物の様子を見に行きたいです。

- ・ハマヒサカキの花が今頃咲くということを知り、雌花・雄花をじっくり観察して歩いた。また、背の低い樹木の実を見て、見たことあるはずだが何かわからなかったら「サルスベリだろう」と言われて、それではその木が近くにあるはずと探したらやはりあって、実を確認するとその通りだった。今まで花や葉だけを見ていたということで反省でした。また、葉の長いヤナギは、何ヤナギか？という宿題もできた。秋晴れの琵琶湖周辺を歩き、植物の晩秋の姿を見たり、よく目にする植物でもじっくり観察することで新しい発見があったりと充実した時間を過ごせた。何より広いところを久々に歩き、とても気持ちがリラックスできました。

感想のメールを読みながら、ひとりでは分からないこともメンバーが集まることで、みんなで調べ、発見したこと分かったことを共有出来る。自分だけでは思いつかなかった視点がみえてくる。植物の話が出来る(楽しみとストレス解消?)し、分からないことも聞くことが出来る。という、発足当時のうっすらと描いていたこの会の姿が定着してきたと感じました。

1月10日(日) 「樹幹トレイル、湖岸、博物館周辺の観察」 参加者 0名

新型コロナの流行が報道され始めたため、急遽中止とした。

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後に予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定(しばらくは、密を避けるため、行いません)です。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- 2月 2月は毎年お休み
- 3月 未定 (新型コロナの流行次第によっては中止)

※4月以降の計画は、3月に集まって決めるか、メール等で相談して決める予定です。

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(ˆoˆ)/
当日、直接、実習室や現地へ来ていただいても結構です。

**【活動報告】**

12月5日(土)に行われた日本珪藻学会第40回研究集会(オンライン開催)で、根来健会員(ただし特別研究員として)が、琵琶湖の珪藻に関する重大発表をしました。

根来健・大塚泰介:螺旋状群体を形成する *Aulacoseira ambigua* 単藻培養株に見られた群体の形状変化

琵琶湖で *Melosira japonica* とされていた螺旋状群体をつくる珪藻が、培養過程でだんだん伸びていき、*Melosira italica* とされていたものに近づいていくという内容です。現在、この2つのタイプは、*Aulacoseira ambigua* という同じ種内における異なった forma (型) であると考えられています。しかし環境により2つのタイプが相互変換するとすれば、遺伝的裏付けがない単なる環境変異ということになります。今のところ半年間培養しても真すぐに伸びきった群体は認められていませんが、たいへん緩く波打つ程度になっている群体が出現しており、環境変異である可能性が大きくなっています。なお、*Aulacoseira ambigua* の直線状群体を当時その異名同種だと考えられていた *Melosira italica* と同定したのも、螺旋状群体を *Melosira japonica* と同定した(この同定は正しかったことがわかっている)のも、根来さんの父上、根来健一郎氏(日本珪藻学会初代会長)だったというのは、ここだけの話。

山本真里子会員が影の会長と共に書いた、藤前干潟(愛知県)の珪藻植生の論文が、珪藻学会誌 *Diatom* に掲載されました。核染色法と篩法の組み合わせによって、現場で生育していたと推定される珪藻だけを選び出して報告した画期的な論文です。山本さん曰く「やっとお世話になった藤前の人たちに恩返しできた」とのことです。

山本真里子・大塚泰介 (2020) 藤前干潟の珪藻植生に関する報告. *Diatom*, 36: 13-21. <https://doi.org/10.11464/diatom.36.13>

そして何と、この研究に関連して山本会員が撮影した顕微鏡写真が、*Diatom* の表紙を飾りました。これは琵琶湖博物館の顕微鏡で撮影されたもので、藤前干潟で採集された2種の珪藻の、それぞれ核染色した被殻の帯面と殻面、そしてクリーニングした殻の殻面が並べられています。

相変わらず、どうにも扱いが難しい LED 光源に翻弄されながらも、細々と顕微鏡写真撮影を進めています。幸いにして、波長が短い LED 光源に交換できる目途が立ちました。影の会長(←これを書いている人)が虚脱状態から立ち直りつつあるので、会員が書きつつある3本の論文もそれぞれ、少しずつ先に進みました。コロナ禍が収まる頃には、万全の状態で活動ができるようになればいいなあ。

【活動予定】

1月24日(日)夜に、たんさいぼうの会第65回総会を、オンラインで開催します。残念ながらまたしても、総会日がニューズレターの原稿切れと発行の狭間に落ちてしまったので、報告は次号になります。

集まらなくてもできる活動を、それぞれに進めていきます。メダカの水槽に出現した珪藻の研究は、すでに種同定と写真の整理を終え、本文を書き進めています。藤ヶ鳴湿原(岡山市)、瀬田公園湿地(大津市)の珪藻についても、完成に近づけていきたいと考えています。他にも、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、愛知県の鉾質土壌湿地群の珪藻植生研究、曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究などを進めています。



(14) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

新型コロナウイルスの感染拡大, そして, 寒波の中での年明けになりました. グループの活動には厳しい状況が続きますが, 土の中でじっと耐えて春を待っているエビ達のことを思いながら, 新しい年の活動を模索したいと考えています.

【活動報告】

昨年 12 月 20 日にオンライン行われた「第 11 回 琵琶湖地域の水田生物研究会」で

山川栄樹: 大津市南部の水田における 2 種のカブトエビの共存と競争

という口頭発表を行いました. 滋賀県内には, 2 種のカブトエビが生息していますが, アメリカカブトエビは, 大津市南部から東近江市西部にかけての平野部と, 日野町, 長浜市の一部で確認されていますが, アジアカブトエビの生息地は, 大津市の月輪, 大江, 石山寺辺, 赤尾町など, 市街地近郊に残る圃場整備の行われていない数十筆の水田に限られています. カブトエビ類の発生数は年により増減が大きく不安定であるため, 限られたマンパワーで経年変化を正確に把握することには難しい点も多いのですが, 田んぼの生きもの調査グループでは, 2011 年頃より 2 種のカブトエビの生息状況を継続して調査しています. 広域的には, 滋賀県内においてアジアカブトエビの生息域が広がる傾向は見られないものの, 月輪, 石山寺辺地区ではアジアカブトエビの勢力が徐々に増大していること, 大江地区ではアジアカブトエビの勢力が既に圧倒的になっているものの, アメリカカブトエビが現在も極少数生息していることが明らかになりました. 一方, 地区内の水田を灌漑する用水路系の上流部にアメリカカブトエビの生息域が広がる赤尾町では, 両者の共存状態が継続していることも確認されました.

大阪平野や奈良盆地においては, 近年になって, アジアカブトエビが大和川水系全体に分布を広げ, アメリカカブトエビの生息域が同水系上流の一部地域に限られるようになってきているとの報告があります (大阪市立自然史博物館, 大和川の自然, 東海大学出版会, 2007). 上流にアメリカカブトエビ, 下流にアジアカブトエビという状況は, 大津市で 2 種のカブトエビが見られる地域にも共通しています. 地区ごとの注水時期の違いなども考えると, 代掻き時の水温が影響しているのではないかと考えられますが, その確認には, 水入れ時からの継続的な調査や, 飼育環境下での実験が必要になるかもしれません.

【活動予定】

新型コロナウイルスの感染が拡大しているため, 先が見通せない状況ですが, 何らかの形で 3 月に総会を行いたいと考えています. 日時や実施形態が決まり次第, メールで会員の皆様に連絡いたします.

(山川 栄樹)



(15) たんぽぽ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「たんぽぽ調査・西日本 2020」実施中>

「たんぽぽ調査はしかけ」は, 「たんぽぽ調査・西日本 2015」というたんぽぽの参加型広域調査に協力しながらたんぽぽについて学ぶことを目的にしているグループです. 5 年に 1 度 2 年にわたって実施される広域調査ですが, ついに来る 3 月から「たんぽぽ調査・西日本 2020」の調査が始まり, 2020 年に本調査を実施し 5 月 31 日に調査期間が終了しました.

<「たんぽぽ調査・西日本 2020」の調査期間を延長予定>

新型コロナウイルスの感染防止対策として, すべての参加府県で, 広く参加を呼びかけるイベントや行事が中止になっているため, 本調査事務局では調査を 2021 年まで延長して実施することを決めました. 実際には府県ごとに方針を決めることとなりますが, 滋賀県では 2019 年, 2020 年の結果を検討して, 2021 年には調査データの少ない地域や種類 (雑種のたんぽぽがデータに上がりにくい) を補足的に調査する予定にしています.

【活動報告】 なし

【活動予定】

広域調査に合わせたグループであることから, 今後活動の整理を進めており, グループとしては一度解散することも検討中です. 前号でも書いたように, 2019 年の調査の際に参加表明していただいたメンバーには別途で今後の活動につい

て伺う予定です。担当者の作業が遅く、ご迷惑をおかけしておりますが、こちらからのメールを待たずに、この原稿を読んでくださったメンバーはご意見をおよせください。



(16) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保 実香・中村 久美子

【活動報告】

◆コロナ対策として、事前予約制とし、午前午後の2部制で活動を行っています。

◆12月の活動 12/16(水)

親子の参加がなかったため、スタッフによる勉強会を行いました。計4年間神戸大学の研究室が幼児期の環境学習を研究対象にしてくださっています。3年間子ども達を見つけてくださった大学院2回生の方が、これまでの研究成果を報告してくださり、私たちが日々感じているちこあそでの子どもの学びを語り合いました。これまでほとんどできていなかった、「ちこあそによる子どもの学びを評価する」ことができ、また今後のちこあそでやっていきたいことなどの課題もあがり、とても有意義な時間となりました。

◆1月の活動 1/13(水)

午前の部: 子ども1名、保護者1名、午後の部: 子ども1名、保護者1名

博物館のメンテナンス休館のため、1月は第2週の水曜日に実施しました。

少ないながらも、ご参加くださる親子がおられ、ゆったりと過ごすことができました。寒波の日々でしたが、当日はとっても暖かい日差しが降り注ぎ、外遊びもとってもリラックスした雰囲気でした。マッチで火をつけて焼き芋をしたり、生活実験工房の周囲の森を探検したり、冬眠中の虫たちを探したりと、盛りだくさん。コロナ禍ですが、感染リスクを出来るだけ下げながら、子どもが自由に自然に触れ、保護者の方がゆったりと過ごしてもらえる場の大切さを感じました。

※ちこあそは、生活実験工房周辺の展示空間の自然で活動しています。屋外活動ですので、感染のリスクは低いのですが、幼児がマスクをしたり、子ども同士の触れ合いを避けたりすることは難しいことを理解いただいて、大人は三密を避け、また社会的な理解を得ながら活動できるように実施しています。

Webで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

12月スタッフ会議 研究成果を聞き意見交換

1月火吹き竹で火おこしに挑戦

1月冬眠している虫を探そう



【今後の活動予定】

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
2月	2月17日(水) 10:00-14:00 第3水曜日です	ちこあそ2月	※毎月おおよそ第3水曜日に行っています。 コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。 ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。
3月	3月17日(水) 10:00-14:00 第3水曜日です	ちこあそ3月	

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■ 11月28日(土) 参加者: 6名+学芸員2名

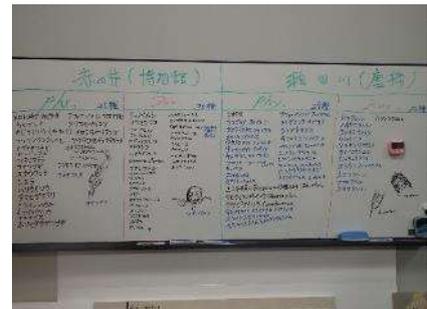
博物館でプランクトン観察を行いました。ウログレナを多く見ることが出来ました。前回から参加した会員の方が採水器を自作して試用していました。ホームセンターで手に入るもので作られているのですが狙った水深の水を採ることのできる優れものです。普段当会で博物館前でプランクトン採集するときはプランクトンネットを投げて採集していますがこの方法では採集する水深や濾過量をコントロールすることが出来ません。専門の採水器はそれなりに高価なので比較的手軽なこの道具は素晴らしいと思います。



採水器で採集した水をふるいで濃縮している。



コガタワムシ属の1種



11月28日に見つかったプランクトン

■ 12月19日(土) 参加者: 5名+学芸員2名

博物館でプランクトン観察を行いました。ホシガタケイソウが多く見られました。



12月19日に見つかったプランクトン



ホシガタケイソウ

■ 1月16日(土)

新型コロナウイルスの感染拡大につき中止にしました。

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(18) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 由良 嘉基・奥野 知之

【活動報告】

- 12月12日(土) 「綿にふれてみよう！」中止
- 1月9日(土) 「骨にふれてみよう！」中止

『わくわく探検隊』は、感染拡大防止の観点からメンバーの安全・お客様の安全が確保できるまで中止となっています。新年を迎え、世の中の状況は波のように上がったり下がったりを繰り返しています。琵琶湖博物館は、県外からも多くの来館者を迎える施設ですので、小さな子どもたちが対象になるイベントの実施は慎重に考えていく必要があります。みんなが楽しく活動できる日が来ることを願っています。



(19) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中川信次・松岡由子

【活動報告】

- 11月28日(土) 参加者: 5名、見学者: 1名

ネコの解剖、クマの頭骨のクリーニング、組み立て、タヌキの徐肉、写真撮影を行いました。

今回はメンバーのご家族の方の見学者もいて、いつもよりはにぎやかな活動になりましたが、しっかり換気やスペースを確保しながら活動を行いました。

見学者の方や初めての参加者さんがいらっしゃる時に、質問を受けたりしながら作業していると、いつも自分の勉強不足を感じます。その方が生き物に興味を持ってもらえるかもしれない入り口に、自分が立っているのかもしれないと思うと、もっと面白く伝える事ができるのではないか、もっと違う事が言えるのではないか、まちがった事を伝えてはいないかと、自分の内で普段の勉強不足が露呈して後悔してしまいますが、少しでも興味を持ってもらえるように普段の活動を通してしっかりと学んでいきたいです。

- 12月5日(土) 参加者: 1名
タヌキの徐肉を行いました。

- 12月20日(日) 参加者: 3名
ネコの解剖、タヌキの徐肉、クマの頭骨の洗浄を行いました。

- 12月26日(土) 参加者: 2名
ネコの解剖、タヌキの骨のクリーニングを行いました。

- 1月10日(日) 参加者1名
タヌキの皮なめしを行いました。
今回はタヌキの皮なめしの作業、皮なめしは剥いだ皮の内側に残っている筋肉や脂肪などの組織を取り除く事から始めます。

始めは比較的大きめの組織をピンセットやメスで取り除き、ある程度取れたら、今度はヘラや山刀のようなもので皮の内側をこそぐようにして残りの組織を取り除いていきます。

その後洗浄したりしてから、なめし液に浸けて(今回は4日程度)、その後乾燥させてから揉んで柔らかくしたりします。

- 1月16日(土) 参加者: 2名
タヌキの皮なめし、クマの頭骨のクリーニングを行いました。
今回でクマの頭骨7体分のクリーニング作業が終了しました。

クリーニングが完了してキレイになったクマの頭骨が7個も集まるとなかなかの迫力があります。



なめし作業が終わって、乾燥中のタヌキの皮です。

活動の特性上、普段から骨には接する事が多いですが、こんなにまとまった数のクマの頭骨を見る事はあまりない事なので、貴重な機会になっています。

同じクマの頭骨といってもそれぞれにわずかな違いが見られました、これもこれだけの数がまとめて一か所にある今の機会でしか気づけなかったかもしれないので、今後の作業工程を進めていく中でもいろいろな発見ができそうで、楽しみです。

今後は頭骨の破損部分等の組み立て作業に移っていきたいと思いますが、個体によっては破損部分が粉々になっていて修復が無理そうなものも見受けられるので、きれいに復元できるように頑張っていきたいです。



クリーニングが終わったクマの頭骨です。

【活動予定】

- ・1月24日の10:00~12:00に博物館での活動を予定しております。
- ・2月、3月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回2~3時間程度の活動を予定しております。



(20) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■12月2日(水) 参加者: 20名(一般参加:12名を含む)

活動内容: 季節の植物でアロマウォーターを作ろう

屋外展示の太古の森で、もみの木の枝葉を採取し、水蒸気蒸留を行いました。

もみの木といえばクリスマスツリーで、ヨーロッパを連想していましたが、

日本でも太古の森の時代から現在まで自生しているそうです。

太古の森にあるメタセコイアや、以前蒸留したフウは絶滅しています。

もみの木の葉先は二つに分かれています。もみの木の周辺にくつつきムシが

たくさん生えていましたが、ちぢれ笹だそうです。

植物の観察をしてから、蒸留のお話と見学、抽出できたアロマウォーターで

ルームスプレーを作りました。

第2弾はメンバーが持ってきたローズマリーの蒸留を行いました。若返りの薬草

と呼ばれるローズマリーの効果の程は?!

蒸留後のお楽しみは、窯に残った湯での手浴。楽しい時間をすごさせていただきました。

ました。



原料植物の観察



植物をカットして窯へ



アランビック蒸留器の説明

■12月13日(日) 参加者: 11名

活動内容:しめ縄作り

今年初めて博物館で毎年実施されている生活実験工房の田んぼ体験「しめ縄作り」を、緑のくすり箱でも実施し、12/20に一般の方を及びして実施するイベントのお手伝いができるよう、生活実験工房の中川さんからしめ縄の作り方を学びました。

用意して下さった稲藁を整え、しめ縄を網、形を整え、装飾をして完成ですが、稲藁を整えるのがなかなか難しい作業でした。しかし、要領をつかんでからは、休憩をとるのも忘れ、ひたすらしめ縄作りに没頭しました。

しめ縄に飾る、ゆずり葉や裏白、千両などの植物についても意味を学ぶことができました。また水引や折り紙で作った扇、紙垂なども飾りも手作りし、本格的な(お店で販売できるような!?) しめ縄を作ることが出来ました。



しめ縄の編み方講座



出来上がったしめ縄

■12月20日(日) 参加者: ?名

一般参加のしめ縄作りに緑のくすり箱のメンバーが
お手伝いさせていただきました。

■12月21日(月) 参加者: 5名

活動内容:キカラスウリの根っこ掘り

少人数の参加となりましたが、キカラスウリの根っこを掘りました。

キカラスウリは、昔からあせもなどに使われる天花粉の原料となる植物です。

琵琶湖博物館では、キカラスウリの観察ができます。夏には夕方から咲く、神秘的なレース状の花も見られます。根は秋の終わりぐらいに掘るそうです。重労働でしたが、とても貴重な体験をさせていただきました。

太くてゴボウのような根っこですが、これをあせもの薬や、おしろいの粉として使っていたとした昔の人の知恵はすごいなあと感じました。

キカラスウリの実から作った石鹸やフェイスクリームなども販売されているそうで、購入したメンバーが写真を送ってくれました。

この日に採取できた根っこは少ないかもしれませんが、2月の活動では天花粉を作る工程が学べたらいいなあと思います。



根っこ掘りの様子



キカラスウリの実



キカラスウリの根っこ

■1月12日(火) 参加者: 4名

活動内容: 廃油石鹸作り

緑のくすり箱で、毎年恒例となっている「廃油石鹸作り」を行いました。
新型コロナウイルス感染拡大の影響で、手洗いの重要性が叫ばれ、一時は、店頭から固形石鹸が品薄になった時期がありました。その為、廃油から作る石鹸作りは、これから知っておくとよい知識になるなあと、改めて思いました。廃油石鹸の材料となる廃油は、何度も繰り返し使って黒っぽくなったものの方がよい石鹸に生まれ変わるそうです。

石鹸作りは、手順が難しくハードルが高いように感じますが、緑のくすり箱で代々受け継がれているレシピは、とても簡単で、廃油と苛性ソーダ水を石鹸専用にしてあるミキサーにかけて、数分トロリとなるまで混ぜるだけ。
あとは、牛乳パックや、紙製のパウンドケーキ型などに生地を注ぎ、均してから、アロマテラピーで使う精油の古くなったものとか、ハーブなどをまぜて、固めます。今回はイランイラン、ティートリー、レモングラス、メイチャン等の精油や、メンバーが作ってくれた陳皮(ミカンの皮の乾燥したもの)を入れて作りました。家に持って帰り、外側が固まったら型を外し、2~3日たってカットして、半年くらい乾かしたら、安全でよい石鹸になります。
家庭で作る場合は、石鹸専用にするミキサーがないので、ペットボトルに廃油と苛性ソーダ水を入れてシェイクする方法が、本に載っていました。
また自宅で挑戦して、うまくできたら、メンバーにもお伝えしたいと思っています。



専用のミキサーで材料を攪拌



石鹸の種を型にいれ、オプションを追加するところ



自宅に持ち帰り、カットして半年寝かせるとよい石鹸に！

【活動予定】

- ・2月12日(金) キカラスウリから天花粉作り
- ・2月か3月(日程未定) 木のスプーン作り
- ・3月(日程未定) 年度末総会



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋 克郎

【活動報告】

■11月22日(日) 参加者: 会員8名、一般の方20名

生活実験工房行事「秋の昆虫採集」のサポート

虫架けメンバーは一般の参加者の方々に吸虫管の使い方や実体顕微鏡の操作などのサポートを行いました。



活動の様子

【活動予定】

新型コロナウイルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。

山地などで昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。（文責：梶田）



(22) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■11月28日(土)13:30~16:00 参加者:(会員)4名 博物館職員:1名

内容:樹冠トレイルで繁茂している草本や樹木を覆っているつる植物除去と樹名板の釘金を緩める作業を行った。樹冠トレイル工事と台風被害のためすっかり明るい森になったせいで遷移実験区のようにいろいろな植物の侵入が見られた。つる植物ではクズ、キカラスウリ、スイカズラ、ヘクソカズラ、草本はオトコエシ、ヤブミョウガ、セイタカアワダチソウ、オオアレチノギク、チヂミザサなど、木本はアカメガシワ、タラノキ、クサギなどの実生が見られた。次回は太古の森で除去作業を実施する。



■12月12日(土)13:30~16:00 参加者:(会員)6名 博物館職員:2名

内容:太古の森の駐車場側でクズ、キカラスウリの除去と枯れ枝の整理をした。クズは前回の切り株から小づるがたくさん出ていたのでかなり丁寧に除去したが地下茎は残っているのでしばらくは根競べである。来館者と交流ができるようになれば刈り取ったつるや木の実などを利用しリース作りを企画したい。



シナサワグルミに巻き付いたキカラスウリ



スイショウに巻き付いたクズ

【今後の予定】

新型コロナウイルス感染症が急拡大していることから1月の活動は休止することにした。活動再開までの間は「森人ブログ」やメールなどで情報交換する。

ちなみに「森人ブログ」のアドレスは以下のとおりです。会員以外の方の閲覧も歓迎いたします。

<https://morihito.blogspot.com>

【活動報告】

年末年始の休業を含むこの2ヶ月の間、担当者が関わった活動実績はありません。

【活動予定】

科学部のメンバーをはじめとする高校生がグループの主な構成員であるため、新型コロナウイルス感染拡大の第3波のさなか、ますます校外での活動が難しくなっているように思います。博物館としては、学年替わりの長期休みもあることすし、各学校での対応に従いながら、質問や調べものがあればメールなどで気軽に博物館を使ってくれればと考えています。



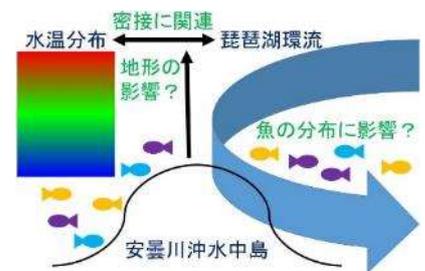
【活動報告】

■11月29日(日)13:00~17:00 魚類自然史研究会での研究発表

場所: 琵琶湖博物館 実習室2 ほか

参加者: 4名 (はしかけ3名 学芸員1名)

担当学芸員が研究室でZoomを利用したオンライン発表を行い、2名は博物館実習室で、1名は自宅でオンライン参加しました。



研究発表で提示した仮説図解

■12月12日(土)13:30~15:30 方角センサーの性能テスト

場所: 琵琶湖博物館 会議室

参加者: 3名 (はしかけ2名 学芸員1名)

メンバーが試作した、水中で測器の方角を地磁気で観測して記録するセンサーをいろいろな場所に置いて、その性能を調べてみました。防水性は充分なようで記録も正常に読み出せるのですが、室内には磁気を狂わせるもの(例えば机を構成する鉄骨)が多くて何を観測しているのか判らない状態になっているということが解るのにずいぶん手間取りました。ドタバタしたわりに成果は少なかったのですが、貴重な経験になったと思います。

■1月9日(土)13:30~14:10 水温センサーについての議論

場所: 琵琶湖博物館 会議室

参加者: 2名 (はしかけ1名 学芸員1名)

正月早々ということもあったのか参加者が少なく、メンバーが水中で使える既製の温度センサーを見つけたという話題を共有し、メンバーのメーリングリストでも報告しました。

【活動予定】

・当面は原則として毎月第二土曜の午後に会合を持つことにします。

【活動報告】

■ 11月11日(水) 参加者: 5名

- ①活動場所: 湖南・甲賀・愛荘エリア
- ②調査目的: 湖南市、甲賀市土山、愛荘町での湧水調査

A. 吉姫神社の清水(湖南市石部東町)

万病に効くと云われる湧水が存在していたが、現在、鎮守の森の上部が宅地開発され宮前の湧水は湿った程度であり、採水できず。

B. 土山町南井水(甲賀市土山町南土山)

旧東海道「土山宿」から田村川へ少し入った所にある。しょうず公園として整備されている。石垣の上には現在は耕作地と新興住宅地が広がるが、河岸段丘崖のあちこちから湧出している。集まる所には洗い場が二つ。

野菜洗い場と洗濯場での使い分けのルールが表記されている。水量は多い。

C. 山比古湧水(愛荘町松尾寺地先)

2017,12,15に調査済みであるが、当時、雪のため十分な調査ができなかったための再訪問となった。

今回は紅葉真っただ中、景色は最高。前回と同じく豊富な水が岩の間から流れ出ている。湧水の少し登ったところに山比古地藏尊の社があった。湧水状態、水量など平成名水100選にも選ばれているのは納得である。おすすめスポット



吉姫神社の清水



土山町南井水



山比古湧水

■ 11月27日(金) 参加者: 6名

- ①活動場所: 東近江エリア
- ②調査目的: 今までに印象に残った湧水場所の再調査。

A. 京の水(東近江市黄和田町)

前回訪問は2017.12.15。名水「京の水」と呼ばれるだけあって、水を汲みに来られる人は多く、整備も行き届いていた。前回訪問時より三年経過しているが、湧水量には変化なし。今回新たにPETボトルを並べて汲みやすいようにパレットが固定されていた。持ち帰り人にとっては便利であるが何か味気無さを感じた。

B. 御澤神社神鏡水(東近江市上平木町)

前回訪問は2018,1,15。この神社一帯は水利が悪く水田開発が困難で雑木が生い茂っていた。推古天皇の命を受けた厩の皇子が灌漑用水の水源地として開発社を創建したという歴史ある神社。前回同様、水を汲みに来られる人多数で蛇口が増設されていた。境内には湧き出た水がみられるが、主力は地下よりポンプUPされた水を持ち帰っている。水質検査成績書もあり



京の水



京の水で集合写真



御澤神社神鏡水

■12月16日(水) 参加者: 5名

①活動場所: 近江八幡・野洲エリア

②調査目的: 湧水場所の調査

A. 天之御中主尊神社の水「あめのみなかぬしのみこと」(近江八幡市中ノ庄)

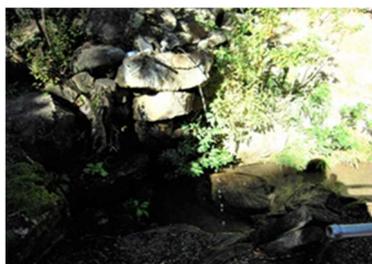
長命寺の鎮守として日吉の下八王子を勧進し虚空蔵大菩薩神社として祀られた慶長四年(1600年)造立の棟札が存するが創立年代は不詳である。水茎焼き物里の隣接地に鎮座する神社の手水から流れている水。掃除に来られたご近所の老人の話では、山中から湧き出している湧き水を2ヶ所の枡を経てパイプで誘引しているとのこと。手水も同じ水源。

B. 三神社の水(野洲市小篠原)

R8 野洲中学校前交差点を山側に入った山裾に妙光寺山摩崖仏への入り口があり、小さな鳥居と祠がある。少し山道を上がると妙光寺山摩崖仏がある。杉の大木の根元に打ち込まれた鉄パイプの口から少量であるが受け枡に水が流れ出している。軟水度の高いピュアな水である。

C. 御上神社の裏参道の手水(野洲市三上)

前回訪問は、2018.2.10。この神社は天野御影命(あめのみかげのみこと)を祀る旧官幣中社で本殿は国宝である。前回は表参道から入った社務所横の手水から採取。今回は裏口入る別の手水を採取した。三上山からの恵みの水が浸透して湧き出していると思われる。



天之御中主尊神社の湧水



三神社の水

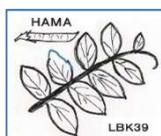


御上神社の手水

【活動予定】

- ・1月14日(木) 午前: 近江八幡市の湧水調査と勧請吊りの見学
午後: 琵琶湖博物館にて打合せ
- ・2月4日(木) 計画中

(本稿の執筆者: 小篠)



(26) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

*令和2年11月03日(祝日) 9時00分~11時00分

天候: 晴れ 気温: 15℃ 参加者: 5名

観察状況 *北風が冷たく白波がたつ日本海を思わせるような琵琶湖。昨日の雨のためか、藻がたくさん打ち上げられている。保護区の道路側には風は届かない。波の音を感じながらの作業日。浜はすっかり冬支度。緑の葉はほとんど見当たらない。北風に守られた雑草の中には大きな葉のハマヒルガオも見られる。ネナシカズラが2か所(1m×1m)(50cm×30cm)かなり広い。前回の取り残しか?があった。白い花もつけている。前回同様に白い幼虫がたくさん土の中にいた。駐車場がきれいに除草されており地籍調査の印と杭が打たれていた。



今日の琵琶湖

活動内容

1. 前回の続きの保護区通路及び保護区の除草（主としてチガヤ）①チガヤをスコップで根こそぎ抜く。
②丁寧にハマエンドウの周りの根も抜いて③通路も広くした。
2. ネナシカズラ駆除(2か所)

海浜植物

- *ハマゴウ：北風？が強くハマゴウはすっかり枯れている。花はなく枯れた枝が目立つ。浜は寂しくなってきた。
- *ハマエンドウ：前回同様緑が濃くツルを伸ばしている。
- *ハマヒルガオ：全体的には葉も枯れているが雑草に囲まれた所では緑の濃い葉も見られる。



ハマエンドウ



ハマゴウ



ハマヒルガオ

*令和2年12月01日(火) 9時00分～11時20分

天候：曇り 気温：9℃ 参加者：6名

観察状況 *気温は低いが風も波もない澄んだ湖面。ガラスのような琵琶湖。初めて見た湖面の様子に感動。作業前は時雨れていたが、晴れてきて気持ちの良い作業日となった。浜はすっかり冬。枯れたハマゴウの枝と種が目立つ。寂しくなった。



今日の琵琶湖

活動内容

1. 前回の続きで保護区内の除草
2. 保護区の周りの測量 ハマエンドウ保護区域の測量結果、周囲約80m、一辺が約20m（正方形ではありませんが）、面積として400㎡位です。
ハマゴウ保護柵は未測定です。チガヤの根の深さは約30cmでした。
3. ネナシカズラ駆除(4本)。草に巻き付き、枯れかかっているが白い種をつけていた。
4. 今後の方針について（ミーティング）

海浜植物

- *ハマゴウ：すっかり枯れ、枯れ枝と茶黒の種が目立つ。地面がはっきりわかるようになってきた。
- *ハマエンドウ：前回同様緑が濃い。乾いた落ち葉とハマエンドウのじゅうたんみたいだ。落ち葉が目立つ。
- *ハマヒルガオ：保護区の前浜は見当たらないが、西の方の浜には緑の濃い大きな葉も見られる。



ハマエンドウ



ハマゴウ



ハマヒルガオ



← ネナシカズラ →



*令和2年12月18日(金) 9時00分~11時20分

天候:晴れ 気温:4℃ 参加者:4名



今日の琵琶湖

観察状況 *気温は低く、風が少しあるが澄んだ湖面。最近雨が降らないためか水位が低い。昨日の雪で対岸の比良山系の雪と真っ青な空、湖面との風景が実に絵になる。近江新海浜1本松と山々との風景も格別だ。保護区の浜側のロープが2か所切られていた。また、入口にゴミ(ペットボトル・菓子袋等)が捨てられていた。

活動内容

1. 滋賀県公園緑地課、上原氏が現地活動状況視察に来られた。宇野さんにも立合っていただいた。
2. 前記作業のため活動時間が一時間となった。前回の続きで保護区内の除草(チガヤも枯れて根まで抜きやすい)メマツヨイグサは根がしっかり覇っている。ネナシカズラは見つからなかった。

海浜植物

*ハマゴウ: 枝も細くなり枯れた葉っぱがどうにかついている。枝ももろくなり折れそう。

*ハマエンドウ: 全体的にちぢんできて枯れた葉が目立つ。落ち葉の中に埋もれていく感。

*前回(12月1日)の浜遠藤保護区域の測量結果は、周囲 約80m、一辺が約20m(正方形ではないが)面積として約400㎡。ハマゴウ保護柵は未測定。チガヤの根の深さは約30cm。



ハマエンドウ



ハマゴウ



県公園緑地課職員視察

*次回の作業日: 1月はお休み (要相談)

♡今年はコロナで思うように作業はできませんでしたが、みんな元気に集まることのできたことに感謝です。来年も心新たに楽しくやりましょう。

3. 生活実験工房からのお知らせ

12月20日(日)に、生活実験工房で「しめ縄づくり2020」を開催しました。今回も、多数のはしかけ会員の方にスタッフとして応援いただきました。また、会員の中には、しめ縄に付ける飾りの材料を持って来てくださる方もいらっしゃり、大変助かりました。ありがとうございました。

参加者は、それぞれ個性的なしめ縄、しめ飾りを作り、楽しんでおられました。皆、美しく仕上がっていました。スタッフの皆様のご指導が良かったのだと思います。また、しめ縄づくりだけでなく、しめ縄の由来や意味などにも関心を持たれた参加者も、多くいらっしゃいました。博物館としてもうれしい限りです。

さて、2月に予定しておりましたイベント「わら細工」ですが、滋賀県内の新型コロナウイルスの感染状況が「警戒ステージ」に引き上げられたことに伴い、中止と致しました。残念です。

一刻も早く新型コロナ禍が収束することを願うばかりです。



しめ縄づくり 2020

担当: 交流係

【活動予定】

- 2月 7日(日) わら細工 中止
- 3月 13日(土) 一年間のふりかえり

4. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス(各グループの報告欄に掲載)にご連絡ください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。